

令和4年度8020公募研究報告書抄録（採択番号：22-6-15）

研究課題：新型呼吸器系ウイルス感染症流行に対する歯科医療提供体制の構築に関する研究
究：長野県における新型コロナウイルス感染流行下での歯科医療提供状況調査

研究者：栗田 浩、酒井洋徳、田中宏和

所 属：国立大学法人信州大学医学部歯科口腔外科学教室

【目的】新たな感染症の流行や広域災害に備えるために、今回の新型コロナ感染流行の経験を検証し、対応力向上をはかることが必要である。そこで、長野県で行われた「新型コロナウイルス感染症にかかる県内歯科医療提供体制」の内容、実施状況、およびその成果をまとめ、新たなパンデミック等に対するリスク管理、および、対応策の策定に関する情報を提供することを目的に検討を行った。

【対象および方法】以下の3つの研究を行った。(1) 2019年から2022年にかけて新型コロナウイルス感染症にかかる県内歯科医療提供を目的に策定、実施された対応策のまとめ、(2) 長野県内の歯科医院における歯科医療提供状況および新型コロナウイルス感染状況の調査、(3) 長野県内における新型コロナウイルス感染および疑い患者への歯科医療提供状況に関する調査。

【結果】新型コロナ感染対策として、新型コロナウイルス感染症にかかる県内歯科医療提供体制・方針の作成、対応可能な医療機関の整備と周知、「緊急を要する歯科・口腔外科疾患」マニュアルの作成と周知、病院歯科口腔外科における新型コロナウイルス感染症の疑いがある（または陽性である）患者の受け入れ体制の整備を行った。上記で策定した歯科医療提供体制に沿って歯科医療を提供した患者は25例であり、処置を要した患者が8例、入院加療を要した患者が3例あった。歯科医師を対象に行ったアンケート調査の結果では、長野県内のほぼ全ての歯科医院で適正な感染対策（水際対策、トリアージ、感染対策など）が行われており、新型コロナ感染拡大の例は見られていなかった。

【考察およびまとめ】新型コロナ感染拡大時に緊急の歯科口腔診療を要した患者は一定数あり、歯科医療提供体制の整備が必要である。パンデミックや広域災害時に対する歯科医療体制の構築には、行政-歯科医師会-病院・大学（二次医療機関、情報収集提供）の協力が必要であり、日頃からの協力体制の醸成が必要である。歯科に関しては二次医療機関の整備が遅れており、緊急時には支障となる可能性がある。長野県の歯科医療機関で適切な感染対策が取られており、歯科医院における感染拡大は生じていなかった。歯科および口腔疾患は頻度の高い疾患であり、パンデミックや広域災害発生時などには、情報および歯科医療提供体制を整備し、提供する必要性が確認された。